

令和2年度後期授業科目の概要及び開講時期

科目区分	No.	授業科目の名称	授業の概要	配当年次	開講時期	開講曜日	開講時間	担当教員
基礎	1	マーケティング	ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセスを体系的に習得する。	1年	第3クォーター (9月～11月)	土曜	1・2限	江戸克栄
応用	2	サプライチェーンマネジメント	日々の暮らしに密接に関わる「商業活動」の革新を目指した流通革命の歴史を振り返り、チェーンストア経営・SCMの基本を学ぶ。戦後の混乱の中から、様々な起業家が立ち上がり「豊かな暮らし」を求め、試行錯誤を重ねた。各企業の成功と失敗の物語（ベガスクラブ渥美俊一、メンパーダイエー(中内功)、ヨーカドー(伊藤雅俊)、ニトリ(似鳥昭雄)、イオン(岡田卓也)、西武流G(堤清二)等)を「ケーススタディ等」を通じ学習し、今後の「商業活動」の方向性等を考える。チェーンストア経営の原則、あり方(Vision)等、を学ぶ。また全ての企業を「飲み込む」と言われる「アマゾンエフェクト」や、GAFA等の各プラットフォームの動きが我々の日々の生活に及ぼす影響についても考える講義を行う。	1年	第3クォーター (9月～11月)	火曜	6・7限	七田良彦
応用	3	生産管理	これからの生産性の向上のポイントは、人間の思考工程の生産性の向上することである。本授業では、人間の思考工程の生産性の向上の方法を教える。一般的な工程分析法により、作業スピードは生産性はすでに十分に上がっている。本授業では、私自身が開発した「プロセス・テクノロジー」を用いて、技術で言えば設計や、文科系で言えば経理、営業、企画など、人の思考の連鎖で行われる工程の分析法を教える。学生は、この「プロセス・テクノロジー」を用いて、日本の大企業30社の思考工程分析を基に、全ての会社の工程を、1/2以下に短縮した秘訣を学ぶことができる。「プロセス・テクノロジー」の概念とメソッドであるため、バックグラウンドが、文科系でも理系でも理解できる。まず講義で基本的な概念を学び、分析用フォーマットを使い実習形式で、課題の工程を、各自で分析する。思考工程の分析は、熟練者の判断項目とその判断基準の連鎖を(思考工程の手順)あり出す。例えば、エンジンの設計の判断思考工程は、1万項目の判断の連鎖だった。その1万の判断工程で、熟練者が使っている判断基準(往々にして暗黙知と呼ばれる)を、明文化し、コンピュータで熟練者の知識を共有化することで、誰でも同じ判断が可能となる。熟練者が辞めればなくなる知識を、コンピュータの中に、会社の資産として残す方法でもある。前半4回の授業は、同じ工程をテーマに思考工程分析法を学ぶ。後半4回の授業は、各人が行っているそれぞれの業務をテーマに、自分の工程分析をする。昨年の実績では、職種は、公務員、薬剤師、製造部門、ソフト開発など、職種はそれぞれ違っていたが、10名ほどの学生のほぼ全ての人が、自分の工程を1/2以下にすることができた。	1年	第3クォーター (9月～11月)	土曜	5・6限	山田真次郎
応用	4	スモールビジネスのファイナンス	コーポレートファイナンスが大企業を対象としているのに対して、スモールビジネスのファイナンスは、文字通り、スモールビジネスを対象としている。授業では、スモールビジネスのファイナンス、いわゆる中小企業金融と、アントレプレナーファイナンス(もしくは、ベンチャーファイナンス)という大きく2つの学問体系を扱う。授業は、担当教員からの講義とそれに伴う履修者によるプレゼンを組み合わせながら行う。プレゼンに対する成績評価の割合が大きく、プレゼンの準備、報告及び議論に多大な労力を伴うことを認識したうえで、履修されたい。	1年	第4クォーター (11月～2月)	水曜	6・7限	高橋陽二
応用	5	多様性と人材マネジメント	日本企業のグローバル化は全世界市場をその対象とし、サプライチェーンマネジメントによって地域企業や中小企業を巻き込む形で進化を遂げている。その過程において国際化、IT化、分権化といった企業側からの事情のみならず、企業の社会的責任(CSR)の側面からも企業におけるダイバーシティ(多様性)の推進とそのマネジメントは喫緊の課題となっている。本授業では、今日における人材マネジメントモデルを「ダイバーシティ・マネジメント」と位置付け、多様な人材のマネジメント手法に関して、理論的かつ実証的な考察を行っていく。講義はテキストおよび参考文献に基づく発表とレクチャーを中心に行うが、新聞・雑誌記事のトピック解説、ケースメソッド、グループディスカッション、全体討議も織り交ぜる。期末レポートでは、自社(あるいは特定企業)の多様性に関する課題を取り上げ、プレゼンテーションを行う。(*授業の進め方は履修人数によって変動することがある)	1年	第4クォーター (11月～2月)	土曜	1・2限	木谷 宏
専門	6	アジア型環境ビジネス創造	アジア諸国の範囲は広く、国・地域によって成長速度は異なるものの先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっている。各国・地域が持続可能な発展を目指し、環境ビジネスの技術とマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例をもとに実践を学び、各動向を分析する。	2年	第7クォーター (9月～11月)	水曜	6・7限	吉川成美

※ 表中の授業の概要及び開講時期は変更することがあります。